

社会(公民的分野)

I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長		
共通 観点	(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。
	(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長		
共通 観点	(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。
	(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。
	(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。
教科 独自 観点	(4)	現代社会の見方・考え方を働かせることができるよう工夫されているか。
	(5)	既習事項を基に、生徒自身が設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されているか。
	(6)	国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国の主権を尊重し、各国民と協力し合うことについて自覚を深めることができるよう工夫されているか。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長		
共通 観点	(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。
	(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

II 選定資料利用上の留意点

- 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特徴をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

Ⅲ 具体項目

社会（公民）

観 点		発 行 者	東 書	教 出
1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長				
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。		「現代社会の特色と私たち」では、社会貢献活動を行う中学生や、社会で活躍する人々を紹介することで、よりよい社会づくりに参画しようとする意欲を高めることができるよう配慮されている。	「持続可能な社会に向けて」では、地域社会がもつ課題を設定し、資料の読み取りや話し合い活動などに取り組むことで、主体的に社会参画する意欲を高めることができるよう配慮されている。
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。		「私たちの生活と文化の役割」では、長崎県にある「祈りの三角ゾーン」の写真から宗教の多様性を、「日本国憲法とは」では、平和祈念像の写真から平和主義について考えさせる題材が扱われている。	「自由って何だろう」では、世界遺産である大浦天主堂が紹介され、信教の自由について、歴史的側面から考察し、理解を深めることができる題材が扱われている。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長				
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。		各章末の「学習をまとめよう」では、用語の解説や事象の関連性を図式化して示すことで、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。	各章末の「学習のまとめと表現」の「HOP!」では、学習内容の定着度を確認するための問題を提示することで、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。		「みんなでチャレンジ」、「スキルアップ」を設け、対話的な活動ができるとともに、多様な思考の方法を用いて考察させることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	「THINK!」を設け、多様な資料を読み解き、自身の考えをまとめたり、発表や討論を行ったりさせることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。		単元を貫く探究課題を設定し、1時間ごとの学習課題と探究課題をつなぐ問いを設け、段階を踏んでスムーズに探究課題を解決できる構成にすることで、主体的に学習できるよう工夫されている。	導入資料「LOOK」や、「公民の窓」で着目する視点を変えたり、異なる視野を示したりすることで、主体的に学習できるよう工夫されている。
(4)	現代社会の見方・考え方を働かせることができるよう工夫されているか。		各学習ページに、見方・考え方を働かせる視点の例を示したマークを提示することで、現代社会の見方・考え方を働かせながら課題解決を図ることができるよう工夫されている。	各章で意識させたい「見方・考え方」を示すことで、現代社会の見方・考え方を働かせながら課題解決を図ることができるよう工夫されている。
(5)	既習事項を基に、生徒自身が設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されているか。		「確かめよう」で既習事項の確認、「ふり返ろう」で図式化した記述式によるシートの完成、「深めよう」で自分の考えを表現させることで、学びを深めることができるよう工夫されている。	「ウォーミングアップ！公民」で、学習する内容に関連した問いを示し、既習事項を基に自分の考えをまとめたり、話し合ったりする活動をさせることで、学びを深めることができるよう工夫されている。
(6)	国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国の主権を尊重し、各国民と協力し合うことについて自覚を深めることができるよう工夫されているか。		「みんなでチャレンジ」が設けられており、自分事として考えつつ、既習事項の内容を駆使して自分の意見をまとめさせることで、学びを深めることができるよう工夫されている。	章の終わりの「学習のまとめと表現」がポップ、ステップ、ジャンプと観点別に示されており、既習事項を基に課題を追究させることで、学びを深めることができるよう工夫されている。
(7)			「もっと知りたい!」において、沖縄のアメリカ軍基地に関する歴史的経緯や日本と世界の安全保障について示すことで、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるよう工夫されている。	平和祈念式典の写真に掲載したり、各国の憲法に明記された平和条項を比較したりすることで、国際社会の平和と発展に寄与しようとする自覚を促すことができるよう工夫されている。
(8)			「よりよい社会を目指して」では、持続可能な社会のための身近な実践例を紹介することで、現代社会の課題を主体的に考え、国際社会の発展に貢献しようとする自覚を深めることができるよう工夫されている。	主権・領土、国際平和などの幅広い分野も補足説明として「LOOK」という項目や「公民の窓」に掲載することで、国際社会に貢献しようとする自覚を深めることができるよう工夫されている。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長				
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。		平易で具体的な表現がされており、バランスを考えた文章の量にすることで、分かりやすくなるよう配慮されている。	漢字には適宜ふりがなを使用しており、読みやすくするとともに、記述の表現は身近な生活体験を例示することで、分かりやすくなるよう配慮されている。
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。		本文に図番号を付すことで効率的な学習ができ、漫画やイラストなどの資料も豊富に掲載することで、興味・関心をもって学習を進めることができるよう配慮されている。	「公民の窓」というコラムを要所に配置し、本文の内容と関連する写真から、視点を変えたり視野を広げたりすることで、興味・関心をもって学習を進めることができるよう配慮されている。
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。		資料掲載部分と本文部分を明確に区別し、見分けやすい色や、形や模様、線の種類など色以外の情報を用いたり、図やグラフなどの資料をシンプルなデザインにしたりすることで、分かりやすくなるよう配慮されている。	図やグラフなどの資料は、ユニバーサルデザインの視点からレイアウトや配色、書体などの表現を工夫することで、学びやすくなるよう配慮されている。

観 点		発 行 者	帝 国	日 文
1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長				
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。		「未来に向けて」、「18歳への準備」では、持続可能な社会の実現や中学生の身近な問題を掲載し、考える視点を示すことで、社会に主体的に参画する態度を育むことができるよう配慮されている。	「明日に向かってー私たちの地域参画ー」では、身近な地域の課題や将来について考える学習課題を設けることで、社会参画を促し、自らの人生を主体的に切り拓く力を身に付けることができるよう配慮されている。
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。		「兵器の脅威と軍縮の意義」や「核と軍拡・軍縮をめぐる動き」では、長崎への原爆投下について記載されており、平和について理解を深めることができる題材が扱われている。	「これからの社会をどんな社会にしたい？」の中で、長崎平和祈念式典や対馬市の環境活動を紹介することで、長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深めることができる題材が扱われている。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長				
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。		各章末の「学習を振り返ろう」では、学習した語句や内容を確認する問題を設定することで、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。	各学習ページに、「確認コーナー」、「表現コーナー」を設けることで、学習の終わりに授業で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。		「技能をみがく」のコラムを設け、ロールプレイング、ディベート、KJ法を実践事例とともに紹介することで、知識・技能を活用し、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	「アクティビティ」では、現代社会の見方・考え方を働かせて考察する問いを設けることで、課題解決的な学習を促し、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。		「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」のマークが付けられ、それぞれに具体的な課題や問いを示すことで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	「チャレンジ公民」では、生徒にとって身近に感じられる課題や現代社会の課題を示すことで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。
(4)	現代社会の見方・考え方を働かせることができるよう工夫されているか。		「学習の前に」では、具体的な事例を示したイラストを比較したり、社会の変化や課題を見つけたりする学習課題に取り組むことで、現代社会の見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。 「学習を振り返ろう」、「アクティブ公民」のページなどに「見方・考え方アイコン」を示すことで、現代社会の見方・考え方を働かせた考察ができるよう工夫されている。	各学習ページに「見方、考え方」を提示することで、現代社会の見方・考え方を働かせながら課題解決を図ることができるよう工夫されている。
(5)	既習事項を基に、生徒自身が設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されているか。		各章ごとに「アクティブ公民AL」を設け、生徒が学習課題を設定し、学んだことを基に課題解決に向けて考察、構想、表現させることで、学びを深めることができるよう工夫されている。 「アクティブ公民」、「未来に向けて」のページにおいて、社会科の学習が実社会につながることを実感できる資料を取り上げることで、学びを深めることができるよう工夫されている。	各章のまとめに、「ニュースを見方・考え方から見てみよう」を設け、社会科の学習で身に付けたことを実生活の事例から考えさせることで、学びを深めることができるよう工夫されている。
(6)	国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国の主権を尊重し、各国民と協力し合うことについて自覚を深めることができるよう工夫されているか。		「未来に向けて」では、SDGsや環境問題などの学習課題を示すことで、持続可能な社会の実現に向けて各国と協力し合うことの重要性について自覚を深めることができるよう工夫されている。 「よりよい社会を目指して」では、社会形成のための実践例を紹介することで、現代社会の課題を主体的に考え、国際社会の発展に貢献しようとする自覚を深めることができるよう工夫されている。	巻頭のページには、「国際社会共通の目標、SDGs」として、持続可能な開発目標を示すことで、持続可能な社会の形成について、国際的視点から、積極的に関わろうとする自覚を促すよう工夫されている。 「私たちと国際社会」では、現代の国際社会と課題について写真や資料で分かりやすく示すことで、学習を通して国際社会の平和と発展に貢献しようとする自覚を深めることができるよう工夫されている。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長				
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。		固有名詞などにふりがなを多く使用し、分かりにくい用語については詳しい解説を掲載することで、本文が読みやすくなるよう配慮されている。	平易な文章表現で具体的に記述するとともに、小学校での未習の漢字や重要語句などにふりがなを付けることで、読み取りやすく、知識の習得に結び付くよう配慮されている。
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。		「学習の前に」のページでは、学習内容を俯瞰してイメージできるイラストを掲載することで、実社会に興味をもたせ、学習効果を高めることができるよう配慮されている。	導入ページの「学習のはじめに」では、日常生活と学習内容の関連を漫画で示すことで、課題意識をもって学習を進めることができるよう配慮されている。
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。		各見開きのデザインでは、本文、資料、側注などのレイアウトを統一し、導入資料や学習課題、振り返りの設問を同じ場所に配置することで、学習しやすくなるよう配慮されている。	地図・グラフ等の図版類は、カラーバリエーションに配慮した配色にしてあり、形や模様、線の種類など色以外の情報でも識別できるようにすることで、見やすくなるよう配慮されている。

観点		発行者	自由社	育鵬社
1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長				
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。		各単元のまとめの「学習の発展」において、学習を発展させるための課題を示すことで、持続可能な社会の形成や国際社会の発展に主体的に参画する態度を育むことができるよう配慮されている。	各章の「入り口」において、その章で学ぶことを自分事として考えるための学習課題を設けることで、社会や国家の諸問題を自分のこととして捉え、考えることができるよう配慮されている。
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。		「核兵器の脅威と向き合う」において、長崎市の原爆被害の様子が紹介され、ふるさと長崎の歴史や平和について理解を深める学習に生かせる題材が扱われている。	「文化と宗教の多様性」の中で、ユネスコの世界文化遺産である「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産が地図とともに扱われている。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長				
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。		各章末にある「学習のまとめ」で最重要語句の確認を行うとともに、「3つの問題」を設定することで、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。	各章末の「学習のまとめ」では、学習内容が簡潔にまとめられ、重要語句をチェックしながら問題を解かせることで、基礎的・基本的な学習内容を確実に習得することができるよう工夫されている。
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。		「アクティブに深めよう」では、各問いに対する自分の考えをまとめ、表現する活動を設けることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	「スキルアップ」の中で、ディベートやKJ法、ポストツアーなど他者と議論する方法、意見の整理や発表の仕方を紹介することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。		「ミニ知識」では、興味・関心を高める資料を提示し、「やってみよう」では、現代社会の課題の解決に向けて考察、構想する活動を設定することで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	「やってみよう」では、本文の学習に関連して、シミュレーションや体験学習などの参加型学習への取組を促すことで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。
(4)	現代社会の見方・考え方を働かせることができるよう工夫されているか。		各学習ページに「ここがポイント！」を設けることで、現代社会の見方・考え方を働かせながら課題解決を図ることができるよう工夫されている。	グラウンドの利用という具体的な事例を通して考察させることで、「対立と合意」、「効率と公正」といった現代社会を捉える上での見方や考え方を働かせることができるよう工夫されている。
			「対立と合意」、「効率と公正」について、体育館使用問題といった生徒に関わる例を取り上げることで、具体的に考え、現代社会の見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。	「持続可能な開発目標」や「持続可能な社会をめざして」において、現代社会の諸課題を資料として取り上げることで、現代社会の見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。
(5)	既習事項を基に、生徒自身が設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されているか。		「課題の探求」のページでは、レポートや論文の作成方法、ディベートの方法や実践例を紹介することで、生徒自身が課題を設定して学びを深めることができるよう工夫されている。	各章末の「これから」において、本文の学習内容を身近なものとして捉えることができる資料や学習課題を提示することで、課題解決に向けて構想し、学びを深めることができるよう工夫されている。
			各章末にある「学習の発展」で、複数の学習課題の中から自分の興味・関心に応じて課題選択し、自分の考えを主体的にまとめさせることで、学びを深めることができるよう工夫されている。	「社会科のまとめ」では、持続可能な社会の形成の観点から、既習事項を基に課題を探究しレポートにまとめさせることで、追究したり解決したりする活動を展開することができるよう工夫されている。
(6)	国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国の主権を尊重し、各国民と協力し合うことについて自覚を深めることができるよう工夫されているか。		「もっと知りたい」のページでは、現代の国際社会と課題について考えさせるテーマを設定することで、広い視野をもって国際社会の平和や発展に貢献しようとする自覚を深めることができるよう工夫されている。	「現代社会の文化と私たちの生活」では、日本の伝統文化についての題材を豊富に取り上げることで、日本の文化への愛着を深め、伝統を継承していこうとする意欲が高まるよう工夫されている。
			「日本の先端技術」や「日本の伝統的工芸品」を掲載し、本文中にも日本の伝統や文化を記載することで、自国を愛する気持ちや日本の伝統を育むことができるよう工夫されている。	「持続可能な開発目標（SDGs）」や「持続可能な社会をめざして」の事例を示すことで、国際的視点からよりよい社会の形成に積極的に関わろうとする自覚を深めることができるよう工夫されている。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長				
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。		重要語句は、太字で記載されるとともに、意味の補足が必要な語句は、欄外に注釈として詳しく説明することで、理解しやすくなるよう配慮されている。	分かりやすい文章表現で、固有名詞などには適宜ふりがなを使用するとともに、難解な法律用語には補足を付けることで、理解しやすくなるよう配慮されている。
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。		登場人物のキャラクターの吹き出しに、写真や図表を読み取る視点や考えを深める問いを示すことで、学習効果を高めることができるよう配慮されている。	各見開きの冒頭に、学習を始めるきっかけとなる写真、挿絵、図表などの資料を掲載することで、興味・関心を高めることができるよう配慮されている。
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。		写真や図表はサイズを大きくして見やすくし、本文に関連した資料等を上部に配置することで、本文の内容を理解しやすくなるよう配慮されている。	ユニバーサルデザインの視点から、図版には判別しやすい色の使用や表示をしたり、見開きごとに通し番号を付けたりすることで、確認しやすくなるよう配慮されている。